

第 54 号

発行所 〒157-8560
 東京都世田谷区成城1-13-1
 東京都立大学附属中学校・高等学校校内
 電話 03-3415-0104
 発行責任者 阿部 俊夫
 編集責任者 清水 茂



東京都立大学附属高等学校〈同窓会ホームページ〉
<http://tcu-kasiwa.org/>
 今までは、本校卒業生の皆様との唯一の連絡媒体として当会報「柏」の発行(年2回)をしていましたが、これからはHPからのご案内並びに通信となりますので会員登録を必ずお願いいたします。

2011年度キャリアスタディ総括を礎に 2012新年度へ向けてへの体制構築

キャリアスタディ委員長・理事 青木 良雅 (12期生)



2012.1.28. 母校アルマタホールにて、キャリアスタディ2011の発表会が行われました。学校側の行事としては、OB講演、ゴールシート(2)

が残っていますが、同窓会としては当日・発表会后、学校側とキャリアスタディ2012の第1回打合せをし、2012年度の活動を開始しました。“2011年度キャリアスタディを終えて”とし、2011年度の総括をしてみたいと思います。2011年の最大の変更は、TCU版夢先生と社会人模擬授業が“業(わざ)あり先生”に一本化された事かと思えます。「柏」第53号で講師と講演名には触れていますので、変更された点について述べます。

従来の、TCU版夢先生では講師は卒業生と限定していましたが、一本化の中でOB必須でなく職種・業種を配慮し、全体として講師の職種・業種の多様化に努めましたが、講座ごとによる受講希望生徒の偏りがありました。

キャリアスタディの最大の行事は、生徒の夏休み期間中に行われる企業研修で、2011年度は、249名の生徒、28企業、41事業所、23名のコーディネーターで実施されました。2011年度として特筆出来るのは、コーディネーターへの事前説明会を2回開催、コーディネーターへのレクチャーを実施、20名で87%の参加をいただきコーディネーターとしての意識の統一・共有を図ることが出来ました。又、直前集会については2回実施、21名のコーディネーターの参加、そして欠席の2名については、代行コーディネーターで対応、100%を達成する事が出来、2010年度の反省(研修当日に初めて、生徒と顔を合わせるのでは、コミュニケーションが足りない、少なくとも事前に顔を合わせているべきだ…)を踏まえ実施することが出来ました。コーディネーターの皆さんの多大なご協力有難うございました。2012年も更に徹底を図り、新規コーディネーターの養成にも、役立てたいと考えています。

コーディネーターの皆さんの多大なご協力有難うございました。2012年も更に徹底を図り、新規コーディネーターの養成にも、役立てたいと考えています。

キャリアスタディ委員会としても、総体が同窓会活動の基となる「柏苑祭」は、一心同体として取り組んでいます。「柏苑祭」時に五島育英会、学校広報からの取材がありました。五島育英会からの取材については、五島育英会誌no.93に、“Spotlight 学園訪問付属中高〈キャリアスタディ同窓会と二人三脚で、新たなキャリア教育を模索〉”として記事になりましたので、次ページに掲載させていただきます。過去3年に渡る“現在の同窓会活動”を理解・評価をいただいた結果と思っています。

キャリアスタディの発表(会)が、同窓会としての活動の「評価」につながるものと思っています。当日の母校アルマタホールでの、キャリアスタディ2011の発表会には、企業9社・10名、同窓会8名が招待され、来賓として紹介していただきました。発表会次第は、スタート集会、ゴールシート、ポートフォリオ、業(わざ)あり先生、マナー講座、身のまわりの社会人インタビュー、あしたをつかめ自分史作文、企業研修、プレゼンテーション予選で、来賓の投票により6人の中から、F組玉村雄輝君が「良い仕事とは？」で最優秀賞を受賞・表彰されました。今回、班から個人単位の発表になり、プレゼンテーションのテクニ

ックより、発表の“根っこ”にある“想い・真摯さ”を強く感じました。今回発表の生徒が、夏の企業研修の生徒と同じ生徒とは、信じられない程の成長を感じたのは私だけでは無いでしょう。学校・先生方の熱い指導のもと、生徒諸君のキャリアスタディプログラムへの積極的な取り組みが、成果として表れたと思ひ、嬉しく思いました、“感動した”の一言につきます。講評での阿部会長の“ありがとう”が、全てを語っていたと思います。2012年度のキャリアスタディに向けて勇気をいただきました。

総括として、業(わざ)あり先生については、進路指導部門から5名、同窓会から7名、計12名で実施しました。成功裏に終わりましたが、今後、どんな職種のプロに講師を依頼するか。かたよりは、35人/講座-程度を目安とし、最大12講座、講座数減等、講師の職種等による絞り込みも、検討が必要。

企業研修2011年度は、企業の受入れ人数に幅を持たせた形で実施したが、結果として第3・第4希望にまわった生徒もおり、生徒の希望が生かされていないという課題が残る。企業研修先の規定のプログラム(インターンシップ、就職対応)でない、中学生相手のプログラムをどう進めて行くのか。自動車、金融、鉄法曹界等の新規研修企業の発掘をコーディネーターを確保しながら、どう進めるのか。直前集会・マナー講座は分離別枠で設定、マナー講座についてはHRの中で学校側が実施、場所の提供を受けて同窓会が対応するのか等が、2012年度以降の課題と考えます。

最後に学校よりのキャリアスタディに対するコメントを紹介して、“2011年度

本年度の総会・懇親会は

環境や価値観の異なる年代を超えた仲間同士の心の通うコミュニケーションを

日時 2012年5月18日〈金〉

午後7時より 第37回総会

午後7時30分より 懇親会

会費 6,000円(食べ・飲み放題)

会場 渋谷『東急イン』TEL.03-3498-0109



キャリアスタディを終えて“を締め括りたいと思います。

学校側のコメント (原文のまま):

※最後に、このプログラムは本校同窓生の協力なしでは成立しない取り組みであ

ることを再度確認しておきたい。講演会や業(わざ)あり先生では講師として、また、企業研修では企業と生徒との橋渡しを担うコーディネーターとして、多大な尽力をいただいている。1年間に10回にも及ぶ打合せ会議をもち、プログラ

ムの詳細を検討・確認している。同窓会との年間を通じてのタイアップは本校キャリア教育の背骨を支える大きな特徴となっており、この協力体制をさらに充実・発展させていくことがプログラムそのものの発展につながることを信じてやまない。

この冊子は学校側から見てキャリアスタディの取り組みが、企業研修や講演会などを通じてキャリア教育の推進に貢献していることを示すものである。また、同窓会が学校側から見てキャリアスタディの取り組みが、企業研修や講演会などを通じてキャリア教育の推進に貢献していることを示すものである。



「(スタート集合、ポスター発表) (業(わざ)あり先生)、自身史作文活用」 (セミナー講演、身のまわりの社会人インタビュー) (企業研修は企業を4回(3-7月)で訪問。コーディネーター 23名) (個人レポート作成、船模型にて発表会～10月) (発表会、OB大学生講演会(3-2月)) このうち最大の存在は、なんと100名以上の生徒を3-7月ずつ、23もの企業に送り込む「企業研修」です。これは企業から卒業、退社まで、学校と同窓会OBがタイアップして行う新しい取り組み。教員は事前の本音でのプロセスから成り立つもの。生徒はこの企業研修を数回で乗り切ることで、社会と関する最初の訓練、実践を体験し、その中で「職業とは何か」を養い高し自問することになります。また加えて「人から与えられる」ものではなく、「自分主体に獲得した、訓練を行った知識」として身につけることで、将来を自ら自身の問題として認識し、また進路選択のための糧を養う...これが「キャリアスタディ」の意義だと考えています。

の後輩思いの校長、武蔵工大の良きを引き継いでほしい。そんな思いから参加を決めたそうです。この活動ではOBが年間を通じて生徒と交流し、先生とは違う「人生の先輩」として、時に優しく、時には厳しく、生徒のよき相談相手となっています。一方で、OBも先輩との出会いの中で、昔を振り返ったり、中学校から学ぶことが少なくないとか、本校での学習でもある同窓会副会長の藤原さんは、「3年も経っているということは、これもまた新しいということ、おとなしかなかったが、会うたび声をかけてくれるようになったりするとか、やはりうれしいですね。子供には、早なる職業選択だけでなく、仕事や就職、生き生きとだんだんと人生の先輩として関心を持ってもらいたいと思っています」と語ってくださっています。藤原さんは3年間の活動を振り返り「本来は家庭で行われるべき、お父さんの仕事や人生の苦勞を子供に聞かせる機会が、今は少なくなっているのかもしれない」といいます。企業の仕事内容が事柄にわたること、親子のコミュニケーションの場が少ないことなどもあり、最近の子供は「親の仕事がよく分からない」という子もいるとか、キャリアスタディでは「身のまわりの社会人インタビュー」などで親や家族の職業を調べてもらうことで、将来の職業を身近な問題として考えたり、家庭内で話をするきっかけともなっているそうです。このキャリアスタディを始めから「子供が家にまでいろいろ話し出すようになってくれた」、「子供が家に帰るなり「将来の仕事を決めた!」と話し出し、進んだための」などの反省があり、中には「自分は○○になりたい」といった何の想像が必要なのかを、これから調べたい」といった子もいたとのこと。少なくとも考えるきっかけ作りという点では、この取り組みが予想以上の成果を挙げているようです。

同窓会と二人三脚で、新たなキャリア教育を模索

附属中高がこの「キャリア・スタディ」に取り組む始めたのは今年から3年前、その前身ともいえる活動から数えると、この取り組みは3年目を迎えます。中学3年生を対象に、毎年4月に始まるさまざまなプログラムをこなしながら、卒業までに22項目までの約10ヶ月をかけて、職業選択とはどういうものかを、じっくり考えることとなります。附属中高の場合、高校2年生からの企業・理系の選択を、高校3年時に迫られますが、どの学校でも、進路は科目の成績や模試の結果を見ながら、決められているのが一般的。同校もまた、長きにわたる検討ではありませんでした。しかし教員の中に「毎年の職業史、人生のプランニングに関わる進路選択を、成績だけで決めることに違和感が生じた」ことをきっかけとして、キャリア教育への考え方が大きく変わってきたそうです。当初は専門業者のプログラムを導入した取り組みが

年間にわたり行われました。企業訪問なども盛り込んだものでしたが、現金ながらプログラムの実費的な点で、いくつかの課題が生じたそうです。「訪問先は有名な企業ばかり、ところが物によって、23名もの人数で訪問し、年間が「おそろい」になってしまふ。正直なところ、社会見学の意味を感じていないと感じました(進路指導教員)。進路のプログラムでは「やらされている」という高揚感だけが先行し、職業選択は多々生じたいと感じた同窓会では、自らのイメージに沿った教育プログラムを、自ら作成することになったのです。生徒が教員に頼らず進行する「企業研修」も開始されている「キャリア・スタディ」の大きな成功は、以下の通りです。

キャリア教育から「人生の先輩」との交流も こうした取り組みは、コーディネーターでもあるOBの皆さんの協力を得て、初めて実施することができました。新たなキャリア教育プログラムを模索する学校側が同窓会に相談したこと始まり、同窓会も「かわい〜後輩たちのために!」ととんとと実費のみの手厚い、事業の企画を練って研修先企業の実定と協定し、研修への同行などを行っているそうです。当初は限られた時間でもあったそうですが、それでも手厚い中、実現にこぎつきました。現在同窓会の理事でキャリアスタディ小委員会委員も務める青木さんも、武蔵工大の卒業生として関心のあった「簿籍帳」解決の一助として、また校舎変更を経て新しい校舎にもなって、以前から

中学三年在校生へのキャリアスタディ協力のお願い

協力企業・コーディネーターを大募集

同窓会では、学校からの要請を受け、過去3年間に渡るキャリアスタディに協力してきました。2012年も同様に活動を本年1月より開始しました。4年目になる2012年も同窓会むさこの会員である皆様に絶大なるご協力をいただき、進めていきたいと思ひます。

- 研修企業の紹介および企業研修のコーディネーター
- 連絡先：会長 阿部俊夫 Tel.090-7254-0015
abe-toshio@nde4pp.co.jp
- キャリアスタディ委員長 青木良雅
Tel.090-5730-3645
yoshimasa_aoki@yahoo.co.jp
- 同窓会ホームページ <http://www.tcu-kasiwa.org/>

キャリアスタディ発表会
平成24年1月28日
アルマタホール

右・五十嵐校長
左・阿部同窓会会長
下・授賞式の模様

**「柏苑祭」報告並びに
第54回「柏苑祭」へのお誘い**

昨年、第53回「柏苑祭」は、10月9、10日の二日間にわたり行われました。例年、「同窓会」として会場をお借りして、アルバムの展示、談話室とし同窓生に幅広く利用されて参りました。さらに在校生の展示発表内容も近年充実した物となっています。

今回は、過去に催したイベントを復活させ、「最後の授業」と銘打って退任された先生をお呼びして昔懐かしい授業を開く事になり、2003年3月に退任され、その後2008年3月まで図書館司書教員とし勤められました国語科の尾崎英昭先生をお呼びして、「最後の授業」を催しました。当時は懐かしむ同窓生が多数集まり、盛況の内に終了致しました。



第54回「柏苑祭」(予告)

●日時

平成24年10月7日(日)・8日(祝・月)

●場所

東京都市大学附属中学・高等学校『同窓会』の部屋

【小田急線 成城学園前駅下車
徒歩10分】

☆特別企画 退任された担任の先生による**最終講義**

柏苑祭まで日数がございますので、依頼いたします退任された講師の先生のご都合を確実にものとするため、会期中の講義日/講義開始時刻等は別途《同窓会ホームページ》にて近々に発表・掲載いたします。かならずご確認ください。

〈中学生・高校生の時代には、私たち生意気な生徒たちの為には親身となって叱りつけたり、褒めてくれたりしてくれた当時の恩師。多感であった時代を振り



《公示》同窓会総会開催について

第37回総会を下記の要領にて開催いたします。同窓会会員(卒業生)はどなたも是非ともご出席お願いします。

昨年、平成23年(2011年)から、従来からの事業年度表示である2010年度を昨年の平成23年3月31日をもって年度末となりました。平成23年4月1日からは新年度(2011年度(平成23年度))とすることに移行(変更)いたしました。

従って「事業年度」は毎年4月1日から翌年3月31日までと本来のスタイルになりました。“東日本大震災”にも追い討ちをかけられ経済状況(円高・デフレ)、社会状況(雇用不安・倒産等)も相変らずの閉塞したままの状況下に置かれておりますが、年に一度の同窓生が集まれる機会です。是非、ご出席くださいます様、お願い申し上げます。

記

日時 2012年5月18日(金) 午後7時00分より

場所 渋谷『東急イン』

(渋谷駅徒歩2分) 東京都渋谷区渋谷1-24-10 TEL.03-3498-0109

議 題

- 1号議案 2011年度(2011年4月1日~2012年3月31日) 活動報告
- 2号議案 2011年度(2011年4月1日~2011年3月31日) 決算報告
 - ①一般会計報告 ②第36回総会決算報告
 - ③繰越金内訳 ④会計監査報告
- 3号議案 2012年度(2012年4月1日~2013年3月31日) 活動計画
- 4号議案 2012年度(2012年4月1日~2013年3月31日) 予算案
- 5号議案 キャリアスタディ報告
- 6号議案 同窓会規約改訂について
- 7号議案 役員改選
- 8号議案 その他



懇親会のご案内

総会終了後、同一場所において懇親会を開催いたします。週末の夜、仕事を離れ、懐かしい友とお酒を酌み交わしながらひとときを過ごしてはいかがでしょう。多数のご参加をお待ち致します。お互いに声掛けて参加をよろしくお願ひいたします。

日時 総会終了後(7時30分開会予定)

場所 総会と同じ場所

会費 6,000円(飲み・食べ放題・当日)

返ることによって、これからの人生に於いても永遠に師で有り続けるでしょう。心のもった授業をもう一度履修できることは、私たちが昔に《フィードバック》させてくれます。是非、ご参集ください。なお、最終日午後「同窓会賞」を選定します。ご協力下さい。

柏苑祭担当 塩満 守 (19期生)

☆☆

第53回柏苑祭「同窓会賞」(第3回)は“中3学年展示”に輝く!

第51回柏苑祭から同窓会賞を設けました。卒業した先輩として、また社会人としてのあらゆる視点から検討審査の上、優秀な企画、努力研究された部門を対象として選ばれます。

今回の同窓会の部屋に訪れたOBの方々の「投票」により、決定させていただきました。当同窓会が母校と協力・実践している「キャリア・スタディ」についての詳細な発表・展示さらに「東京発見ウォーク」と題した“観察することでの発見” “精巧なスカイツリーの模型製作”等に評価が集まりました。おめでとうございます。



懇親会報告

昨年、2011 年 11 月 11 日（金曜日）午後 7 時から新宿・京王プラザホテル 47 階（宴会場：あおぞら）に於いて同窓会々員相互の親睦をはかるため、従来の総会時とは別途に懇親会を初めて開催しました。

今回は、ご希望もあり「同期会」として、第 17 期（昭和 45 年 3 月卒業）生の皆様へのご連絡・お誘いを第 17 期の幹事：古橋昭男さんなどをお願いし、広く声を掛けていただきました。結果、予想を大幅に超えた大勢の同期生の方々にご来場いただきました。幹事さんのご努力に改めてお礼申し上げます。

さらに、同窓会・理事会としては出席者の増加に努力目標を設定。60 名近くが集まったことと、第 17 期の同期生が 50 名を超え 総勢 100 名を超える出席者を数えるに至りました。

同総会・懇親会としての出席者数としては、過去の記録を更新しました。当初予定していました二倍以上の出席者となったため、予約時点では広いと感じていた会場は思いのほか窮屈と成り、かつご出席されました皆様方には、料理不足が著しく生じてしまったことをここに慎んでお詫び申し上げます。特に卒業期から幾年も立っておらず就職後、二・三年程の若い同窓生の方々も多数おられ、欲求不満に成られたのでは？とお察しいたします。

会場では出席者が多かった分、会話の盛り上がりも大きく、女性コーラスグループ・ラヴィニアによるイベントの可憐な歌声も打ち消され気味。40 年ぶりに「再会」された同級生同士が当時を振り返っての会話などで、あちら・こちらに華が咲いていました。

懐かしさゆえに次から次へと「いま何やってんの？」とか「孫が二人」とか「お互い上が涼しくなったな」とか「年金もらってんの？」などの話が弾み、アツという間の時間不足で閉会后、二次会へと誘い合う当時はカッコ良かった詰襟の『仲間たち』は、またの再会を約束したことと思います。

（清水 茂 14 期生）



同窓会経費削減について

同窓会会長（14 期生） 阿部 俊夫

同窓生の皆さんご存知ですか。同窓会が学校と共同で中学 3 年生『キャリアスタディー』を実施していることを。1 月 28 日に代表者発表会が開催され、3 年目も無事終了しました。彼らの 1 年間の成長は目覚ましいものがあります。キャリアスタディーの詳細は専門委員会の報告に任せることとしますが、同窓会 37 年の歴史の中で学校との関係が最も高揚している時期となっています。しかし、今、同窓会内部に大きな問題が横たわっています。内容は**資金難**です。

同窓会は国家と違い、経費不足を国債に頼るわけにはいきません。資金が不足であれば活動の内容に制限が入ることは仕方ありません。年間支出予算の内訳は大きく、下記となります。

収入	新入会員入会金+年会費（全員加入の場合）	144 万円
	5 年会費（既卒業生からの振込 ¥3,000/5 年）	45 万円
	合計	189 万円

支出（2010 年度実績）		
68%	160 万円	機関紙『柏』及び封筒の印刷費・郵送費・発送アルバイト費
8%	20 万円	ホームページ管理・更新費
8%	20 万円	会議費、交通費
4%	10 万円	総会援助金
11%	25 万円	事務費、柏苑祭賞、予備費、

総額 235 万円の支出の中で、『柏』の支出を減らさなければ同窓会総体として継続が困難となっています。一方で実績から『柏』の果たしてきた役割は大きなものであったことは事実です。どのように対処すべきか、理事会としては対応について 4 人の専門委員を選出し、半年間に渡ってこの対応を集中審議してきました。その結果が理事会に報告され、理事会として苦渋の選択ではありますが下記内容を採用いたしました。

記

1. 同窓会では高校卒業生は全員同窓生として対応する。
2. 同窓会会員は 5 年毎に年会費を納入する義務を負っている。しかし、会費納入を怠っている方への『柏』の発送を中止する。
3. 同窓会会員には同窓会ホームページへの登録促進を促し、ホームページ上で『柏』を読んでいただくようお願いする。

同窓会ホームページアドレス <http://tcu-kasiwa.org/>

●編集後記

前号『柏』第 53 号、さらに今号に亘って巻頭にはキャリアスタ委員長に総括を含めてお願いしました。このキャリアスタディは、今思えば私たち卒業生が人生での一番の多感期、そして好奇心に満ち溢れた時期でもある六年間（三年間）を通じて、毎日のように通い詰めた言い換えれば青春の輝きに満ちた場所である母校の生徒が対象となります。見るもの、聞くもの、その他経験するもの全てがその後の人生の土台となっています。現在 遂行している母校とのキャリアスタでは、それぞれのコーディネーター諸氏も、中学三年生の生徒たちを前にして、当時の思い出を心の中で振り返っていることでしょう。時の移り変わりを感じ取り、また今後の彼らの人生を少しでも背中を押してあげて「上昇気流に乗せてあげたい」と願う真摯な気持ちが働いています。

「教えることは学ぶこと」と言います。上昇志向が少しでもある方は、是非今後のキャリアスタにご参加ください。（14 期生 清水）